

主題「実現したい未来に向けて目的意識をもって探究し、振り返りから学びを深める生徒」の育成

1 主題設定の理由

本校では、令和4年度より総合的な学習の時間を未来創造科として改編して学習を進めている。各学年の単元を、第1学年「群馬を知る」、第2学年「日本を探る」、第3学年「未来を創る」と設定し、第1学年と第2学年では、群馬や日本を対象に探究を行い、第3学年では、探究の対象を限定せず、これまでの探究を踏まえて、探究の方向性や「実現したい未来」の創造に向けたテーマを個々で設定できるようにしている。また、各学年で小単元①「過去を知る」、小単元②「現在を変える」、小単元③「未来に向かう」（第3学年は「未来を創る、未来へつなぐ」）としている（図1）。

昨年度は複雑化した現代的な諸課題の解決に向けて探究することを通して、各教科等の学びを統合する必要性を生徒が感じることで、教科等横断的な視点に立った資質・能力を育成できると考え実践を行った。成果として、未来創造科での探究活動が各教科等で育成された資質・能力を発揮する場となり、教科等横断的な学びが実現された。しかし、探究活動の中で「自己の生き方」について考えている生徒が少なく、未来創造科での学びが自身の将来や今後の生き方につなげられていないことが課題となった。このような課題の解決に向けて今年度の実践を進めることにした。

未来創造科での学びが将来や今後の生き方につなげられていない原因は、生徒が「実現したい未来」の要素の一つである「よりよい社会」にのみ注目しているからと考えられる。もう一つの要素である「幸福な人生」にも注目していくためには、現代的な諸課題が解決された「よりよい社会」だけではなく、「どのような自分になりたいか」、「将来どのようなことをしたいか」といった「自己の生き方」も考えていかなければならない。生徒が個別に設定する探究のテーマが「よりよい社会」だけでなく「自己の生き方」を踏まえることで、生徒の思いや願いを叶えることにもつながり、生徒のエージェンシーが発揮され、より目的意識をもって探究し、責任をもって学んでいくことができると考えた。また、「自己の生き方」は道徳科や特別活動との関わりが大きく、道徳科や特別活動での学びを未来創造科と関連付けていく必要があるだろう。さらに、目的意識をもって探究しようとする生徒は、AARサイクルを自然に回し、自身の学びを振り返り、学びを深めていこうとするはずである。そこで、各教科等の振り返りの視点や手法を活用することで、生徒の資質・能力を向上できると考えた。

以上のことから、現代的な諸課題の解決と「自己の生き方」を踏まえた必要感のある探究を道徳科と関連付けながら行い、探究の過程や各過程での手続きを振り返る手立てを通して、主題「実現したい未来に向けて目的意識をもって探究し、振り返りから学びを深める生徒」の育成を目指して実践を進める。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
未来創造科第3学年	小単元①「過去を知る」、②「現在を変える」、③「未来を創る」「未来へつなぐ」											
	①過去を知る		②現在を変える				③未来を創る			③未来へつなぐ		
	現代の課題には、どんな原因があり、どんな取組がされているのだろうか。	異学年交流	現在をよりよくするために、私たちには何ができるだろうか。 <small>*課題の設定から情報の収集まで</small>	中間検討会	夏休みの実践	夏休み実践の整理・分析	夢や希望溢れる未来を創るために、どんな提案ができるだろうか。	未来創造科シンポジウム	卒業論文制作			

〈図1 未来創造科 第3学年の年間予定〉

2 実現したい未来に向けて探究していくための具体的な手立て

(1) 「自己の生き方」を踏まえた探究を行う、未来創造科クロス MAP の作成

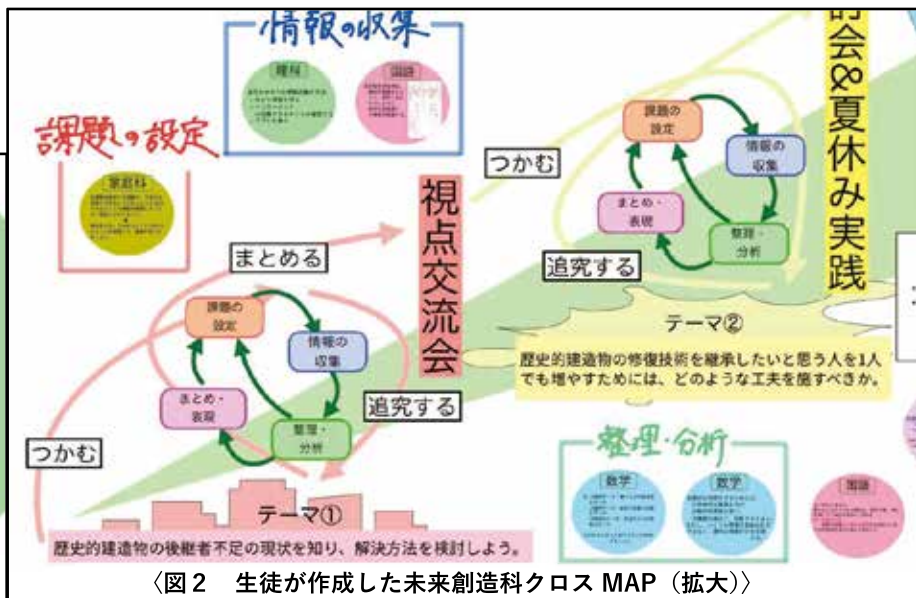
昨年度は、生徒が未来創造科クロス MAP を作成することで、各教科等の学びを未来創造科で活用できることを自覚できるようにした。各教科等では、各教科で作成しているワークシートや振り返りシートに未来創造科エレメントを配置した。生徒は、「今学習していることは、未来創造科でも使えそうだ」と感じた時に、未来創造科エレメントにその関連や学びを書き込み、未来創造科クロス MAP に貼り付けるようにした(図2)。昨年度の成果として、生徒は各教科等の学びと未来創造科の関連を可視化し、各教科等で学んだことが未来創造科で活用できることを自覚できた(図3)。

理科

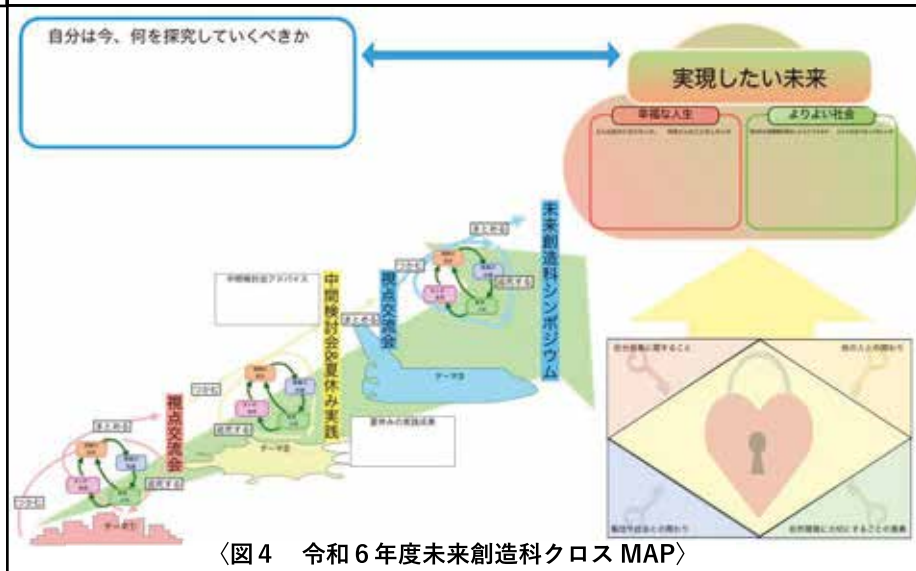
②自身の探究に生かせそうな見方・考え方や言語や情報を活用する方法など

- 理科の結果をまとめる時にしている「シンキングツールで共通点・相違点をまとめる」というのをプレゼンやポスターで活用できそう

〈図3 エレメントの記述〉



今年度は、現代的な諸課題の解決と「自己の生き方」を踏まえた、より目的意識がある探究を行えるように、未来創造科クロス MAP の右上に「実現したい未来(幸福な人生とよりよい社会)」を配置した(図4)。「実現したい未来」を明確にすることで、より目的意識をもち、「自分が今、何を探究していくべきか」を考えられるようにした。また、今年



度は道徳科との関連に重点を置き、関連を可視化できるように道徳科の四つの視点を示したシートを未来創造科クロス MAP の右下に配置した(図4)。シートには、「実現したい未来」に向けて、特に大切にしたい心の鍵(道徳の内容項目)を記述している。道徳科で作成しているワークシートには、道徳科エレメントを配置し(図5)、道徳科の授業の際に「どんな自分になりたいか」を道徳科の価値項目の視点から記入して、

実現したい未来に向かって、心の扉にかけよう! 令和6年 4月 14日(木)

第1章 心の鍵 「人との関わりを見つめる鍵」

礼儀

まねてこぼれぬ。

お辞儀をうまうま。

お礼をうまうま。

お返事をうまうま。

人・場面によって
言葉・振る舞い
変える

拡大

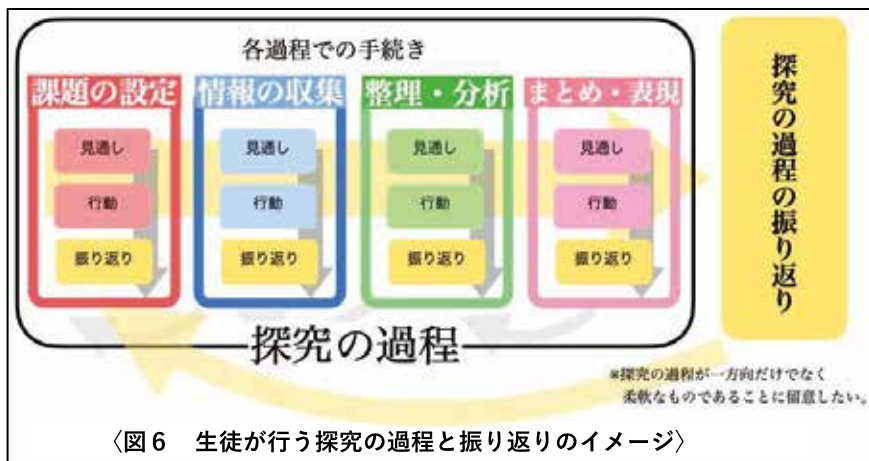
〈図5 道徳科ワークシート〉

シートに記載した心の鍵（道徳の内容項目）と合うものを未来創造科クロス MAP に載せていく。

このように未来創造科クロス MAP を活用し、「実現したい未来」に向けて現代的な諸課題の解決と「自己の生き方」を踏まえた探究を行うことができるようにした。

(2) 探究の各過程と過程全体での学びを振り返る

目的意識をもち、責任をもって学ぼうとする生徒は自然に学びを振り返り、学びを深めていくと考えた。生徒が行う振り返りは、探究の各過程と過程全体での学びという二つのサイクルで行われると考えられる（図6）。今年度は、各過程で行っていた「振り返り」に加えて、探究的な学習過程において資質・能力を育成するため、小



〈図6 生徒が行う探究の過程と振り返りのイメージ〉

単元全体を振り返る「探究の過程の振り返り」も重点化して行うこととした。また、生徒の学びが深まっていくには、どのような手法や視点をもって振り返るかが重要である。生徒が探究的な見方・考え方を働かせながら自身の探究に必要な振り返り方を選択することができるよう、本校で作成した未来創造科ガイドブックに振り返りの手法や各教科等での振り返りの視点を載せることとした。生徒は振り返りの場面で必要だと感じたときに未来創造科ガイドブックを開くことで、自分自身で探究の成果や課題をより明確なものとしながら、学びを深めていけると考えた。

(3) 生徒運営型の授業づくり

生徒が「自己の生き方」を踏まえて探究を進めるためには、道徳科だけでなく特別活動とも関連付けていくことが有効であると考えた。特に、生徒が「自分は今、何を探究していくべきか」を自ら意思決定し情報の収集や整理・分析を終えた後の振り返りは、より「自己の生き方」を踏まえた自分事のものになるだろう。

そこで、学級活動の授業で培った話し合う力や、意思決定するための話合いの流れを活用して、より「自己の生き方」に着目した探究ができるようにするために、生徒運営型の授業を行う。計画委員となる生徒が、未来創造科ガイドブックをもとに探究を深めるための学習活動を考え、学級に対して授業の提案を行えるようにする。また、計画委員が中心となって授業の進行をする。

教科等横断的な視点に立った資質・能力は学習指導要領総則にて、以下のように大別されている。

1. 教科の枠組みを踏まえた資質・能力
2. 学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）
3. 現代的な諸課題に対応する資質・能力

生徒運営型の授業では、学習の基盤となる資質・能力はもちろんのこと、学級活動をはじめとする各教科の資質・能力や現代的な諸課題に対応する資質・能力など、学習を通して培った多くの資質・能力の発揮が期待できる。「ガイドブックに書かれている」「先生のガイダンスで言われた」から始まる探究ではなく、生徒の意思決定から始まる探究を行うことで、生徒が自らエージェンシーを発揮することができると思う。

また、異学年交流や中間検討会においては、これまでも生徒が進行を行ったり、生徒同士で質疑応答をしたりして探究を深めてきた。日常的に生徒運営型の授業を行うことによって、講座内発表会や未来創造科シンポジウムにおいても、これまで以上にエージェンシーを発揮しながら学習に取り組むことができるようになると思う。

3 研究の成果と課題

(1) 「自己の生き方」を踏まえた探究を行う、未来創造科クロス MAP の作成

未来創造科クロス MAP 上で生徒が「よりよい社会」「幸福な人生」を設定し、道徳科の学びと関連付けることで、実現したい未来を明確にし、現代的な諸課題の解決と「自己の生き方」を踏まえた探究を行うことができるようにした。

成果として、自分自身の日常生活や社会との関わりを意識して探究に取り組み、各教科等の学びとも関連付けながら考えることができるようになった。定期的に未来創造科クロス MAP の内容を交流することで、生徒は各教科等の学びを関連付けながら、自身の生活や社会との関わりを意識し、各々の「探究のために今できること」について考えを深めていた。(図7)。振り返りの記述において「もっと自分の目指す姿をはっきりとさせていきたい」「学んだことを自分の探究に生かして未来につなげていきたい」といった、「実現したい未来」を意識した記述が多く見られるようになった。未来創造科クロス MAP で「実現したい未来」に向けて探究をしていこうとする目的意識が明確になることによって、各教科等の学びへ責任をもって取り組んでいくことができるようになったと考えられる。

また、未来創造科クロス MAP には、生徒一人一人が道徳科ワークシートの振り返りを再考しながら道徳科の要素に「どんな自分になりたいか」を記述して配置することができている。加えて、道徳科の振り返りにおいても、現代的な諸課題に触れた内容が多く見られるようになった(図8)。未来創造科クロス MAP で道徳科の学びを振り返る機会が増えたことによって、道徳科の学びを自分自身の未来に生かそうとする意欲が高まっていることが分かる。

中学校学習指導要領総合的な学習の時間編(2017)では、「自己の生き方」を考えていくことについて、三つの視点が示されている。未来創造科クロス MAP を活用することは、その中の一つである、「人や社会、自然との関わりにおいて、自



<図7 未来創造科クロス MAP の交流>

課題を振り返って
今日は、オーバーボードズについてを考えていきました。人間関係などに苦しんで、やってしまう人が多くいることがわかりました。これらのことを誰にも相談などをすることができず、全て自分で解決しようとしてしまい、これらのことが起こってしまうことがわかりました。そして、自分たちも苦しいと感じた頃には、すぐに相談することができるように信頼することができる友達をつくっておいたり、手遅れになる前に自分の好きなことをしたり、癒されて心を落ち着かせたり、運動をして心をすっきりさせたりしていきたいです。

<図8 現代的な諸課題を扱った道徳科の振り返り>

対象	インタビュー・アンケート等を実施する理由
介護施設	私の祖母が行っている施設で、実際に働いている人の姿を見てみたい。
風力発電会社	風力発電を実際に見て、形や構造が違い興味をもった。
文房具会社	附属中はタブレット学習が発展しているの、消しゴムはあまり使っておらず、一般的にはどのくらい利用しているのか気になった。
大学教授(精神科)	アニメが大好きなので、アニメ療法を使っていきたい。
商店街組合	よくレシートをもらわずに捨てている光景を見る。レシートにエコの視点から情報を増やしていくとよいと思った。
自動車会社	最近道路で電気自動車をよく見るようになった。最近私の身近でも電気自動車に買い替えた人がいるため、開発について詳しく知りたいと思った。

<図9 生徒の作成したインタビュー・アンケート等を実施する理由>

2. インタビュー・アンケート等を実施する理由

自分の英語を「学ぶ」立場ではなく、英語を「教える」立場から今の英語教育環境に対して感じる課題やそれらを解決するためにどんなことが必要だと思うのか、今の授業で取り組んでいることなど教育に対することを知りたいため。

3. インタビュー・アンケート等を行う対象や企業名、時期、連絡先、方法

○対象や企業名 ○時期

群馬大学共同教育学部附属
中学校英語科教師+Assistant Language Teacher

6月頃 または 7月までに

2. インタビュー・アンケート等を実施する理由

私の弟が月に2回ドローン教室に通っていて、その企業はもともと災害用ドローンの操縦を行う企業だったから。そんな災害用ドローンに普段から関わっている方に話を実際に聞くことで、インターネットでは知れない細かい情報までわかったから。

3. インタビュー・アンケート等を行う対象や企業名、時期、連絡先、方法

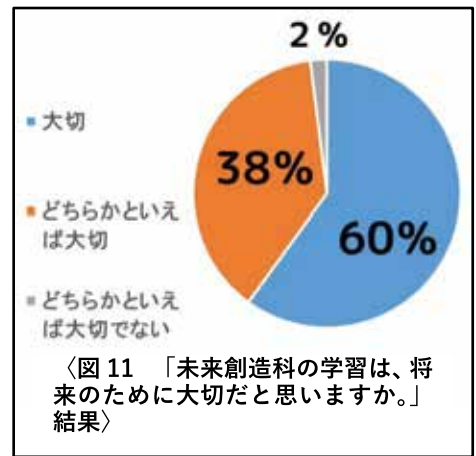
○対象や企業名 ○時期

群馬県ドローンクラブ

月頃 または 6月までに

<図10 生徒の作成した起案書の例>

らの生活や行動について考えていく」上で効果的であったと考える。直接体験を行う際に作成している起案書の「インタビュー・アンケート等を実施する理由」の記述内容として、調べたことのみならず自分自身の生活を意識した記述が多く見られるようになった(図9・10)。自分自身の日常生活や社会との関わりが明確になったことで、探究への意欲も高まり、直接体験(実地調査やインタビュー活動など)も行う生徒も増加した。令和6年6月に行ったアンケートでは「未来創造科の学習は、将来のために大切だと思いますか。」について、約98%の生徒が「大切」「どちらかといえば大切」と回答している(図11)。自身の日常生活や社会との関わりを明確にし、各教科の学びと関連付けながら「自己の生き方」を踏まえた探究をすることによって、未来創造科の学習に対してエージェンシーを発揮しながら責任をもって取り組むことができるようになったと考える。



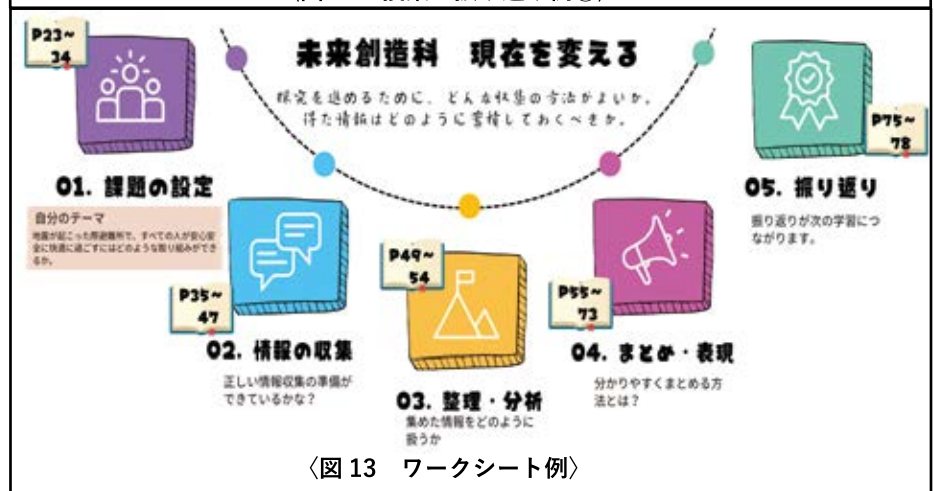
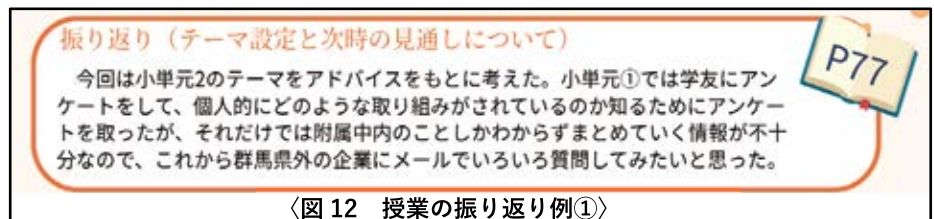
課題として、「自己の生き方」「よりよい社会」「探究してきたこと」の内容的な関わりに悩んでいる生徒も見受けられた。テーマを決める際に、「自己の生き方」「よりよい社会」「探究してきたこと」を網羅できるものをイメージすることが困難だったためだと考えられる。現代的な諸課題の解決がなぜ大切なのか、自分が思う「よりよい社会」と現代的な諸課題の関連は何か、「自己の生き方」と探究したいテーマは合致しているか等、テーマを決める際の観点を生徒に伝え「自己の生き方」「よりよい社会」「探究してきたこと」の関わりを見いだすことができるようにし、より多面的・多角的に探究したいテーマを検討するための手立てを考えていく必要が示唆された。

(2) 探究の各過程と過程全体での学びを振り返る

未来創造科ガイドブックに振り返りの手法や各教科等での振り返りの視点を載せ、定期的に授業で自分がより意識していきたい視点を確認することができるようにした。また、探究の各過程と過程全体において、より振り返りを重点化していきたい場面で振り返りを意識した授業実践を行った。

例えば、5月に行った小単元②「現在を変える」のテーマ設定において、小単元①「過去を知る」の探究の各過程についての振り返りを共有しながら小単元②「現在を変える」の探究計画を立てる授業を行った。「このような情報だけではまとめていくためには不十分である」「情報を収集していく中でこのように整理していけるとよい」などの発言や振り返りが多く見られた。このことから、探究の各過程が生徒に定着しているとともに、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の各過程をつなげながら、AARサイクルを自然と回しながら探究をしていくことができたと考えられる(図12)。

ワークシートの構成についても、探究の過程全体を意識することのできるよう工夫をした。昨年度までは単位時間ごとにワークシートを作成していたが、今年度は探究の各過程を一覧化し、未来創造科ガイドブックの該当するページを示し



た構成とした（図 13）。授業では、生徒が自然と未来創造科ガイドブックを活用し探究に取り組むことができるようになった。

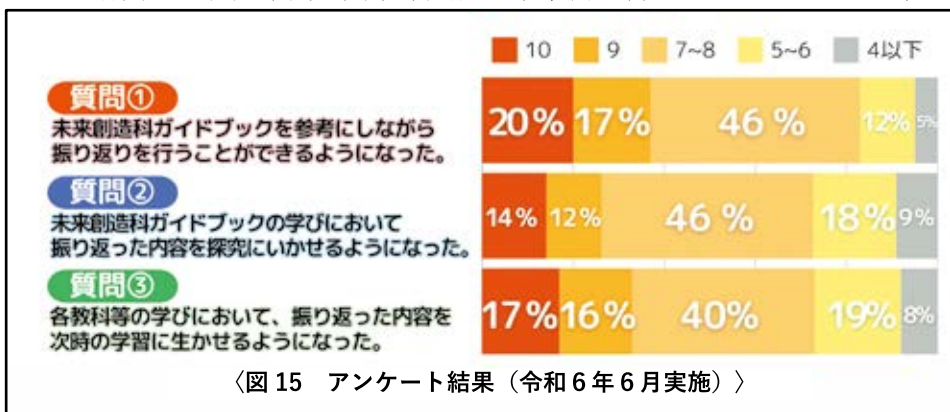
また、探究の各過程を振り返ることに加えて、探究の成果に着目して振り返る「未来創造科振り返りシート」を活用した（図 14）。学期ごとに9つの観点から振り返りを行い、自身の探究の成果を明確にすることで、未来に対する自己効力感を高めたり、これから何を探究していくべきかについて目的意識を強めたりすることができるようにした。

実践の成果は、令和6年6月実施のアンケート結果にも現れている。「未来創造科ガイドブックを参考にしながら、振り返りを行うことができるようになった。」

（1点～10点）については、約8割の生徒が7点以上の回答をしている（図 15：質問①）。生徒が振り返り際には、未来創造科ガイドブックを開き、自分自身に必要な視点を見つけようとしている姿が多く見られるようになった。未来創造科ガイドブックの振り返りの手法や各教科等での振り返りの視点が、振り返りによって探究の見通しを確かなものとしていくための学びの足場となり、AAR サイクルを回すことにつながっている。

「未来創造科の学びにおいて、振り返った内容を探究にいかせるようになった。」（1点～10点）について、約7割の生徒が7点以上の回答をしている（図 15：質問②）。例えば3年生の小単元①「課題の設定」においてテーマを設定する場面では、前年度の異学年交流や未来創造科ミニシンポジウムの振り返りを生かしながら、今後どのような探究をしていきたいか、解決の方法を考え、確かな見通しをもつことができた（図 16）。このような AAR サイクルについては、各教科等の学びとも深く関連するものである。

〈図 14 未来創造科振り返りシート〉



〈図 15 アンケート結果（令和6年6月実施）〉

振り返り（自分の探究を考えることができたか、など）

異学年交流を通して、他の領域と関連づけることが大切だと思った。そこで、ミニシンポジウムであったような「幸せに生きるために」〈福祉〉という視点で衣文化を発信したり、伝統を継承してだけでなく付加価値として環境問題〈環境・エネルギー〉や貧困問題〈社会〉などの世界的な課題を解決できる工夫も付け加えることで「よりよい未来」を多面的に捉えられるようにしたい。また、国連やユニセフなど、世界的な機関や企業と協力したり、今年度のように提案を具現化したりして、より説得力も向上させた探究活動をしていきたい。

〈図 16 授業の振り返り例②〉

4月には、各学年で未来創造科ガイダンスを行い（図 17）、未来創造科と各教科等の学びとの関連性について意識付けをした。具体的には、生徒の作成した未来創造科ポスターを Google サイト上で閲覧できるようにし（図 18）、ポスターを閲覧しながらどの教科等の学びが探究に生きていそうか話し合う場を設定した。「各教科等の学びにおいて、振り返った内容を次時の学習に生かせるようになった。」（1点～10点）について、同様に約7割の生徒が7点以上の回答をしている（図 15：質問③）。

また、図 15 質問①の回答が、質問②③の回答と比べ約 1 割多く 7 点以上の回答が得られていることから、未来創造科ガイドブックの振り返りの手法や各教科等での振り返りの視点が有効に働いていることが分かった。以上のことから、未来創造科ガイドブックの活用や振り返りを意識した授業実践により、未来創造科ガイドブックを参考にしながら、振り返りの質を高め探究の見通しを確かなものとしていく姿が見られるようになり、振り返りから学びを深めることができたと考える。



〈図 17 未来創造科ガイダンスの様子〉



〈図 18 未来創造科ポスターを掲載した Google サイト〉

(3) 生徒運営型の授業づくり

異学年交流や中間検討会を中心として、生徒運営型の授業実践を行った。未来創造科ガイドブックの各チェックリストやマニュアルを基にしながら事前に司会生徒がどのように授業を進めていくのがよいか話し合いを行い、生徒自身で授業を進行していくことができるようにした。各学年では、学級委員を中心として講座内交流会を行い、生徒の意思決定をする機会を増やすことで、「自己の生き方」を踏まえた探究が進められるようにした。

成果として、「実現したい未来」に向かって継続的に社会に関わろうとする姿が見られた。例えば 7 月に実施した中間検討会において、事前にクラウド上で全員分のスライドを閲覧できるようにすることで、

探究した内容について、他者の「実現したい未来」と関連させ「自己の生き方」を踏まえながら振り返っていた。中間検討会当日においても、3 年生が運営をしながら、学年間わず質疑応答をし合い、それぞれの「実現したい未来」や探究の是非について語り合い、生徒のエージェンシーが発揮されていた（図 19）。また、学校評議員や PTA の方々から助言をもらう際にも司会の生徒が



〈図 19 中間検討会の様子〉

中心となって話題を設定していた。ワークシートの振り返りからは、生徒が主体的に他者と協働しようとする意欲や、自分の個性を大切にしようとする意識など、「自己の生き方」を踏まえながら生徒のエージェンシーが発揮されていくであろうと期待される記述が多く見られた（図 20）。

1学期を振り返って、見通しを自分でもって探究し、伝えようとするところはできている一方で、他者と協働したり、自分の個性を生かしたりするという意識をもって活動がしきれていないことに気づいた。同じ講座の学友と協働すれば、方向性の近い人と見通しを立てることができるし、他の講座の人と協働すればお互いに自分の探究に生かせるところを発見できるかもしれない。また自分の個性を生かせれば、より未来創造科に熱意をもって取り組めると思う。今日の振り返りを意識してこれからも探究をしたい。

〈図 20 ワークシートの記述〉

また、生徒運営型の授業では、自分たちで話し合う内容を決める必要があることや、授業の進行方法を考える必要があることで、様々な資質・能力を統合させながら探究に取り組む姿が見られた（図 21）。以上のことから、生徒運営型の授業実践が生徒のエージェンシーや学習の基盤をはじめとする様々な資質・能力の発揮につながったと考える。

課題として、生徒運営型の授業実践をより日常的・継続的に行っていくことが挙げられた。学級活動と同様に、生徒運営型の授業をより実りのあるものにするためには、話合いの題材が必要感のあるものでなくてはならない。

探究的な学習のサイクルのどこに生徒運営型の授業を位置付けることが、より生徒の必要感のある効果的な授業になるかを、継続して実践生徒と共に検証していくことが大切であると考え。そのためには、例えば計画委員を「未来創造委員」として学年で組織し、探究の進度に応じて生徒運営型の授業を立案していくことが考えられる。

- 計画委員が自分たちで話し合う内容を決める場面で、クラスの仲間が今何につまずいていて、探究を深めるためにどんな学習活動をして欲しいか、**情報収集する姿。**
- 各教科等の**学び方を転移させ**、どのような学習活動にするかを**計画立案する姿。**
- 専門的な内容や知識及び技能を習得するために、**講座担当の先生と相談する姿や、学年内外の先生に講義を依頼する姿。**
- 当日の話合い活動において、自身の探究の成果を基に、他の人の探究を深めるために**惜しみなく情報開示する姿。**
- 探究が深まっている生徒に対して、**情報収集や整理分析の具体的な方法を詳しく聞き出して共有し、自身の探究に生かそうとする姿。**

〈図 21 生徒運営型の授業実践で見られた生徒の姿〉

4 今後の展望

今年度の研究を継続するとともに、「自己の生き方」「よりよい社会」「探究してきたこと」の関わりを十分検討してテーマを設定していくことや、より生徒主体の生徒運営型の授業を展開し、各教科等での資質・能力をより自在に駆使できるようにするなどの課題を踏まえて研究を進めていきたい。

「本気になった中学生は、想像を超える力を発揮する」

日常の授業から本気で探究に取り組み、生徒自ら未来創造科の授業で「何を学ぶべきか」「何を学びたいか」を発信していけるようにし、教師の想像を超えた生徒たちの姿が見られることを期待する。未来創造科ガイドブック 2024 から 2025 へのアップグレードと、生徒運営型の未来創造科の一層の充実によって、探究から「自分で国や社会を変えられる」という実感が高まり、未来創造科を通して「実現したい未来を創りたい！」と思う生徒を増やすことができると考える。

〈参考文献〉

群馬県教育委員会（2022）『総合的な学習の時間で児童生徒も教師も楽しく探究！』

群馬県教育委員会（2019）『はばたく群馬の指導プランⅡ』

群馬県教育委員会（2022）『ぐんまの STAEM 教育』

文部科学省（2022）『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』

文部科学省（2017）『中学校学習指導要領 総則』

文部科学省（2017）『中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編』